

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	物質科学国内研修1
	学部・研究科等名	博士課程教育リーディングプログラム インタラクティブ物質科学・カデットプログラム
	担当教職員名・役職	芦田 昌明・教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	21
	受入企業等数	12
	受入企業等名	三菱化学株式会社、積水化学工業株式会社、マツダ株式会社、株式会社日本触媒、日本電信電話株式会社、村田製作所株式会社、株式会社日立製作所、住友化学株式会社、パナソニック株式会社、新日鐵住金株式会社、凸版印刷株式会社、株式会社カネカ
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業の開発プロジェクトに参画、プロジェクトメンバーとして業務推進を行う。業務課題の発見や解決策提案、解決策の実証、知財作成が含まれる。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,4.当該インターンシップは、必修科目として実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	博士後期課程1年次を推奨
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	博士後期課程1年次での受講を推奨しているが、博士論文研究の進捗を考慮して学生が希望する時期の受講を認めている。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	職場上司と目標を設定、開始時、中間時、終了時にそれぞれ相互評価。週報により、担当教員と職場上司が取組、気付きを確認。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	開始前にオリエンテーションで、目標設定、企業における情報管理、知財の考え方等について具体的に指導学習を行う。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	職場上司と共に作成・評価した目標管理シート、事後報告書の作成、報告会の実施により学習した内容を咀嚼して理解する機会を設けている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	週報による取組内容と気付き等を常時モニター。研修開始時に職場上司と目標設定を行い、開始時、中間、終了時に達成度評価とコメントをまとめ、職場と大学教員で共有化。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ループリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ報告書作成、報告会の実施により取組内容や気付きのより深い理解を促すとともに、総合的に評価して本人にもフィードバック。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	90日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	

	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	連続した90日間研修室を離れて業務経験する。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業担当者による評価の実施。目標管理評価シートを用いた進捗管理と具体的な指導。目標作成と進捗管理、達成度評価を職場上司と本人でおこない、教員が把握する。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	大阪大学
	担当部署名	教育・学生支援部 学生・キャリア支援課
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	06-6850-6115
	メールアドレス	gakusei-sien-career@office.osaka-u.ac.jp